

町民一人一人の努力が町の原動力

昭和30年4月1日に菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3村が合併し、菊陽村として誕生しました。菊陽村という村名は「菊池郡の南方に位置し、陽光さんとして輝き、前途の希望は洋々たるものがある」という意味を含め、永遠の発展を願って付けられました。当時の人口は1万2,115人で田園豊かな純農村でした。

現在、下水道普及率は99.7%で、菊陽バイパス全線も開通しました。また、大型住宅団地が開発され、セミコンテクノパークや原水工業団地などに企業が進出し、大型商業施設も立地しています。町の基幹産業としての農業も栄えており、町内各地に、米、野菜、果樹そして畜産と、足腰の強い農業が根付いています。皆さんご存じのとおり、菊陽にんじんは、西日本で中心的な地位を占めるほどの産地を形成しています。

このような活力のある町を先頭に立って創られたのは松岡拓平村長、斉藤兼亀村長、阪本貢町長、富永清次町長の知恵と志、リーダーシップです。そして今、町の原動力として、尊敬と感謝の念を抱いているのは町民一人一人であり、その一人一人のたゆまぬ努力です。

このような先人の知恵と志、そして町民の皆さまのたゆまぬ努力が昭和30年の合併以来、積み重ねられ、今の菊陽町があります。おかげさまで本町は町民所得、人口増加率、平均寿命など健康で豊かな生活を表す指標は全国に誇れる数値を示し、現在4万400人に増加するという勢いのある状態が続いています。

陽光さんと輝き、前途の希望が洋々であるために、先人の知恵と志を忘れず、町民の皆さまと一緒に、将来輝かしい生活都市・菊陽を創り出すよう、第一歩を踏み出そうと決意を新たにしています。

後藤 三雄
菊陽町長

合併60周年記念誌



防災マップ

地図情報サービス「ゼンリン」と協働で水害や土砂災害の危険箇所、避難場所を示した防災マップを作りました。A4版のカラー全56ページで交通事故や不審者目撃情報の多発地点も示しています。10月に町内全世帯に無料で配布しています。家族で避難場所や危険箇所などを確認し、防災・防犯・交通安全にご活用ください。



町勢要覧

町の人口・世帯数の推移や農業、商業、工業などの統計を掲載している他、町の春夏秋冬を写真で紹介しています。さらに昭和30年4月～平成27年4月の町の歩みを年表と写真で振り返り、町民憲章や町歌、町花、町木、町の鳥、まちづくりの将来像「人・緑 未来輝く生活都市 きくよう」を示しています。

富永清次元町長への特別功労者表彰をはじめ、議員や民生委員など72人を自治功労者表彰、地域の振興のため献身的に活動された20人を地域振興功労者表彰として、合わせて93人に後藤三雄町長が表彰状を贈呈しました。最後に菊陽中学校合唱部が町歌「伸びる菊陽」など4曲を合唱し、式典に花を添えました。来場者は今後の町のさらなる飛躍と発展を誓い、万歳三唱しました。



1. 5. 会場には約500人が出席し、功労者を拍手でたたえた 2. 町の無形民俗文化財である馬場楠の獅子舞を披露
3. 町の発展に貢献された93人に表彰状を贈呈 4. 澄んだ歌声を披露した菊陽中学校合唱部

菊陽町合併60周年記念式典

未来の飛躍と発展を願って

菊陽町はことしで合併60周年を迎えました。合併60周年記念式典では、これまでの町の歩みを振り返り、先人に感謝するとともに、町の未来の飛躍と発展を誓いました。

菊陽町合併60周年記念式典を10月18日、菊陽町図書館ホールで開催しました。本町は、昭和30年に菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3村が合併し、菊陽村として誕生して以来、ことしで60年を迎えました。式典には、来賓や表彰者、町民など約500人が出席。まずは本町の60年の歩みを映像で振り返り、町を創り上げてきた先人に思いをはせました。オープニングセレモニーでは、馬場楠の獅子舞が披露され、来場者は重厚な舞いを鑑賞し伝統文化を間近で感じました。その後、長年町の発展に尽力された

菊陽杉並木公園
ブロンズ像「飛翔」
石原昌一氏制作のブロンズ像「飛翔」。将来に飛躍する本町の未来をイメージし名付けられた。どの方向からも見えるよう工夫されている。

